

今週は「個人面談」週間。担任と子供のことについて、1対1で話し合う大切な機会である。十分な話し合いができたであろうか？子供のことについては、今回に限らずに、いつでも相談していただきたいと思う。

私が小学生の頃は「個人面談の日」は怖いものだった。母親が学校から帰ると、まず教室の机の中にゴチャゴチャとしまい込んだ（押し込んだ？）プリントやらテストやら、給食で残した食パンやらを目の前に置かれてお説教。次に担任の先生が、私の日頃の悪事を母親に洗いざらい話すものだから、たまらない。「あんた、いったい学校で何やってんの！」とお説教。「え～っ、それは俺じゃないよ」なんて言い訳しようものなら「口答えするな！」と叱られる。『先生は、いろいろよく覚えているものだ…』と母親に叱られながら、感心？したものだ。明確な世界の未来が見えない時代に入り、この「個人面談」も、少しずつ様相は変わっていくだろう。

今年度から本格実施となった「新学習指導要領」は、明治5年に学校制度ができてから「最大の改訂」と言われる。コロナ禍で、未消化の実践もあるが、確かに「学校とは何か？授業とは何か？子供に身に付けさせるものは何か？…」と、これまでの学校の常識を根底から見つめ直す作業に追われている。

保護者の皆さんは、あまり変わったとは思われないかもしれないが、私たちの授業や子供への意識は、かなり変化してきている。「学習指導要領」は、およそ10年ごとに改訂されるが、今の小学校一年生が高校生になる頃、現在の高校生とどのように違っているのか、ちょっと想像がつかないほどである。